

リピーター

皆さんこんにちは。ポリテクセンター中部の樋熊先生より紹介をいただいた近藤と申します。樋熊先生には新規採用職員研修でお会いして以来、親しくしていただいております。



趣味といえるほどではありませんが、私はミュージカル観賞が好きです。きっかけとなったのはニューヨークへの旅行でした。添乗員付バス観光が苦手な私は、旅行ではいつも現地の人を楽しんでいることを体験したいと考えています。ニューヨーカーの気分が味わえるもの、それはブロードウェイでの劇場体験だと思いつきました。長期人気を誇りチケットの入手も困難といわれる作品「オペラ座の怪人」と「ライオンキング」を選びました。ただ、ミュージカルに対しては、「無意味な音程をつけての会話、大袈裟で無駄な振り付け」程度の印象でした。しかし、それは見事に打ち砕かれたのです。

私を魅了した作品の1つ「オペラ座の怪人」はマジスティック劇場にて十数年のロングラン公演を続けています。劇場内は観客席側を含めた大きな舞台でした。小説『オペラ座の怪人』のモデルであるパリ・オペラ座を模倣した豪華な造りでした。観客席頭上への舞台装置の設置、バルコニー席での演技など観客を作品に巻き込む工夫がされており、オペラ座の客としてミュージカルに参加しているかのような錯覚に襲われました。生オーケストラによる荘厳な音楽、出演者によるオペラさながらの歌唱、予想外の仕掛けは作品を楽しむには充分すぎる

ものでした。

しかし、英語がわからず他の観客と一緒に笑ったりできないのは残念でした。より深く作品を理解したいと思い、数ヵ月後には日本での公演スケジュールを調べている自分がいました。

3度目はロンドンへ旅行した折、ハー・マジスティーズ劇場で観ました。1986年に「オペラ座の怪人」が初演された、いわば幕開けの地です。前から2列目に座ったことで怪人の仮面や特殊メイクを間近で見たり、舞台下のオーケストラピットが近く、指揮者がタクトを振る姿が見えるなど別の楽しみを発見しました。演技者の額に付けられたマイクは不自然でしたが…。日本の某劇団ではマイクを髪に編み込むため全くわからないそうです。

各々の劇団では、それぞれの国の慣習や流行などを取り入れて演出がされているため、味付けの違いを見つけるのも楽しみのひとつです。私の妻はトロント公演も観ていますが、そこにもまた、お国柄が出ていたそうです。

ミュージカルは劇場の数だけ、そして座席の数だけ違うおもしろさがあります。私が何度も足を運んでしまう理由はそこにあります。



次のリレートークは東海能開大の谷地先生にお願いいたします。谷地先生も新規採用職員研修でお会いして以降、親しくしていただいております。よろしく申し上げます。